

平成25年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省25-10)

施策名	目標3-3 水環境の保全(海洋環境の保全を含む)					
施策の概要	水質汚濁に係る環境基準等の目標を設定して、その達成状況の改善を図るとともに、適切な地下水管理を推進して地盤沈下の防止及び湧水の保全・復活を図る。海洋環境の保全に向けて国際的な連携の下、国内における廃棄物の海洋投棄の規制や油及び有害液体物質による海洋汚染の防止、漂流漂着ごみ対策を図る。また、これらの施策と併せ環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組を推進し、水環境を保全する。					
達成すべき目標	水質汚濁に係る環境基準等達成率の向上及び油流出事故の発生時における適切な対応や漂流漂着ごみ対策を図る。また、環境保全上健全な水環境の確保に向けた取組を推進し、水環境を保全する。					
施策の予算額・執行額等	区分	23年度	24年度	25年度	26年度	
	予算の状況(百万円)	当初予算(a)	2,201	2,400	2,474	2,198
		補正予算(b)	218	9,999	0	
		繰越し等(c)	0	-9,988	(※記入は任意)	
		合計(a+b+c)	2419	2,411	(※記入は任意)	
	執行額(百万円)	1953	2,265	(※記入は任意)		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)						

測定指標	1 健康項目基準達成率	基準値	施策の進捗状況(実績)					目標値	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	
		-	99.1	98.9	98.9	99.0	調査中	100%	△
	年度ごとの目標	-	-	-	-	-	-	-	
	2 生活環境項目(BOD/COD)基準達成率	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	
		(河川)	92.3	92.5	93.0	93.1	調査中	100%	△
		(湖沼)	50.0	53.2	53.7	55.3	調査中	100%	×
		(海域)	79.2	78.3	78.4	79.8	調査中	100%	×
	全体	87.6	87.8	88.2	88.6	調査中	100%	×	
	年度ごとの目標	-	-	-	-	-	-	-	
	3 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	年度	
		-	-	-	-	-	-	100%	×
	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	4 陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トン)	基準値	実績値					目標値	達成
22年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	年度		
180		261	206	183	178	173	180以下	○	
年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	-		

評価結果	(各行政機関共通区分)	相当程度進展あり
	目標達成度合いの測定結果	(判断根拠) ○健康項目全体(27項目)の環境基準達成率(24年度)は99.0%で、主要な測定指標は概ね目標値に近い。なお、基準値超過の主な原因は、自然由来が最も多い。 ○生活環境項目(BOD/COD)の環境基準達成率(平成24年度)については、河川は93.1%、湖沼は55.3%、海域は79.8%、全体88.6%であり、昭和49年度(河川は51.3%、湖沼は41.9%、海域は70.7%、全体54.9%)と比べて改善してきている。 ○7次にわたる水質総量削減の実施により、東京湾等に流入する汚濁負荷量は着実に削減されている一方、環境基準達成率は、東京湾、伊勢湾及び大阪湾においては依然として十分でなく、水環境改善に向けた一層の取組が必要。 ○一方、大阪湾を除く瀬戸内海については、他の水域に比較して良好な状態であることから、第6次から、現在の水質を悪化させない取組を実施するよう対策の在り方が見直されている。 ○赤潮発生件数については、最も件数の多い時期に比較すれば減少しているが、近年は横ばい傾向。ただし、自然現象であるため発生件数をゼロにすることはできない。 ○陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量について、赤泥の海洋投入処分量が減少し、期待どおりの成果が得られた。 ○改正した「微生物によるバイオレメディエーション技術利用指針の解説」の普及に努めたほか、大臣適合確認の実績を積んだ。
	施策の分析(今年度対応不要)	
次期目標等への反映の方向性(今年度対応不要)	【施策】	【測定指標】

<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	<p>○「健康項目の環境基準の見直し」の議論にあたり、学識経験者を委員とする中央環境審議会水環境部会環境基準健康項目専門委員会を平成25年12月から2回開催し、審議を行った。</p> <p>○「生活環境項目の環境基準の見直し」の議論にあたり、学識経験者を委員とする中央環境審議会水環境部会生活環境項目環境基準専門委員会を平成25年12月から2回開催し、審議を行った。</p> <p>○「水生生物保全環境基準の水域類型指定」の議論にあたり、学識経験者を委員とする中央環境審議会水環境部会水生生物保全環境基準類型指定専門委員会を平成25年12月から3回開催し、審議を行った。</p> <p>○「カドミウムに係る排水基準等の見直し」の議論にあたり、学識経験者を委員とする中央環境審議会水環境部会排水規制等専門委員会を平成25年11月から4回開催し、審議を行った。</p> <p>○有明海・八代海等総合調査評価委員会に二つの小委員会を設置し有明海・八代海等の再生に向けた課題について順次説明。</p> <p>○平成25年4月に、中央環境審議会水環境部会に瀬戸内海環境保全小委員会を設置し、瀬戸内海環境保全基本計画の変更について審議を進めた。</p>
------------------------	--

<p>政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報</p>	<p>各年度公共用水域水質測定結果(環境省)</p>
----------------------------------	----------------------------

<p>担当部局名</p>	<p>環境管理技術室 水環境課 閉鎖性海域対策室 海洋環境室 地下水・地盤環境室</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>中谷 育夫 宮崎 正信 名倉 良雄 坂本 幸彦</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>平成26年6月</p>
--------------	--	----------------------------	--	-----------------	----------------

1 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)

測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値						
	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
瀬戸内海(大阪湾を除く)における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100	-	79 98	調査中	/	/	/	/	/
大阪湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100	-	67 100	調査中	/	/	/	/	/
東京湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100	-	63 83	調査中	/	/	/	/	/
伊勢湾における水質環境基準の達成率(%) (上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100	-	56 57	調査中	/	/	/	/	/
赤潮の発生件数(瀬戸内海・有明海・八代海の順)[件]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-	-	115/44/16	○/40/16	/	/	/	/	/

赤潮の発生件数(瀬戸内海)の平成25年度実績値("○"と表記)は未発表(平成26年度内に公表予定)